

2021/22 年度 第 4 回理事会議事録

日時： 2022 年 9 月 18 日（日）18 時～20 時

会場： Zoom によるオンライン会議

出席予定者： 山野博哉，波利井佐紀，栗原晴子，井龍康文，中野義勝，木村匡（以上理事），野中正法，宮本育昌（以上監事），久保田賢（事務局），樋口 富彦，井口 亮，熊谷 直喜，鈴木 豪，廣瀬 慎美子，藤田 喜久，山崎 敦子，山下 洋（オブザーバー）

議題（案）

報告事項

(1) 業務報告

資料に基づき、第 3 回理事会以降の実施事業の概略について、各業務執行理事より報告された。

1. 学会誌

和文誌および英文誌ともに順調に編集作業が進んでいる。

2. 広報・社会連携（資料 1）

広報委員会関連としては、ニュースレター 94 号（発行済み）、95 号（編集中）の発行および Web サイトのセキュリティ強化のうちフェーズ 1（2021/22 年度分）の作業が順調に進行している。また、教育・普及啓発委員会関連としては、第 25 回大会で実施予定の小中高生ポスター発表の準備を行なっていると同時に、12 月に開催予定の QGIS 講習会の準備を開始している。さらに、サンゴ礁保全学術委員会とともに保全・教育普及奨励賞を募集している。

3. 学会戦略・国際連携（資料 2）

学会戦略委員会関連としては、庶務・会計担当理事とともに大会要旨の英文表記のひな形を修正し、周知を図った。国際連携委員会からは、第 5 回 APCRS への若手渡航支援について提案された。理事会では方向性について、特に反対意見は出されなかったが、担当理事との協議が十分でないことから、募集や選考等の要件を十分に詰めた上で改めて理事会へ提案することとなった。

4. サンゴ礁保全・調査安全（資料 3）

サンゴ礁保全学術委員会については、保全・教育普及奨励賞の募集等を除き、第 3 回理事会以降は特筆すべき活動はない。調査安全委員会に関しては、事故事例等の情報収集を行ない、アップデートを図っている。

5. 庶務・会計

1) 大会準備状況（資料 4）

資料に基づき、大会期間中のスケジュールの概要が紹介された（予想以上の口頭発表数であったためスケジュールを修正。資料は理事会後に差し替え）。

大会実行委員会から、口頭発表からポスター発表への変更依頼時に、事前に周知をしているにもかかわらず、変更を拒否する参加者がいたことが報告された。様々な提案がなされ、このような場合は、担当理事や会長の宛先を電子メールの cc に加え、情報を共有するとともに、必要に応じて理事から要望するような手順にすることが確認された。

大会実行委員からの質問、確認事項、「若手賞の選考手順と表彰」については、各賞規則に従い選考を進めるが原則的に大会中とされている表彰については、事後に賞状を郵送するということが確認された。選考方法について、各賞規則第 29 条よりも詳細な基準を作成した方がよいという意見も出されたが、各大会実行委員会で実施した選考について、次回に引き継ぐだけで十分という結論となった。

また、大会最終日に予定されている「追悼行事」について、名誉会員ということを示して実施することとなった。これに関連し、基準を決めた方がいいという提案があり、来年度検討することとなった。

第 26 回大会の開催について、2022/23 年度第 1 回理事会までに庶務・会計担当理事を中心に調整することとなった。

(2) その他

sangoML が届かないので、ML サービスの変更を検討してほしいという要望が会員から上がっているが、同様なシステムを使用している複数の公的機関では受信できていることから、オブザーバーを含む理事会メンバーの協力を仰ぎ、受信状況の調査を行ない、ML の変更の前に会員側の方で、対応を依頼する方向であることが報告された。

審議事項

(1) 2022/23 年度事業計画について（資料 5）

資料に基づき、各業務執行理事より事業計画案の概要が説明された。学会誌の投稿規定の改廃時に理事会の承認の要否が確認され、編集委員会の独自性を保つために、報告だけで十分であることが確認された。選挙規則の改定等について、2022/23 年度の選挙に間に合わせるよう庶務・会計担当理事を中心として、年度前半に対応することとなった。

(2) 2022/23 年度予算について (資料 6)

広報・普及啓発担当理事から予算案の明細が資料として提示されたのに加え、一部の予算については 2022/23 年度事業計画 (資料 6) に記載されており、各業務執行理事より説明された。第 4 回理事会の議論に基づく修正等を電子メールのやり取りで進め、2022/23 年度第 1 回理事会までに確定することが確認された。

(3) 名誉会員の推薦について (資料 7)

推薦者により、資料に基づき名誉会員の推薦が提案され、全会一致で承認された。

本会では名誉会員の選考基準について明文化されたものがないことが指摘され、他学会の幅広い例を参考にして、規則を制定するか内規を作成するか等も含め、来年度以降に検討することとなった。

(4) その他

特になし